

ブラックサイト (UNTRACEABLE)

2008 (平成20) 年 3 月19日 鑑賞〈ソニー・ピクチャーズ試写室〉

★★★



監督=グレゴリー・ホブリット/出演=ダイアン・レイン/コリン・ハンクス/ビリー・バーク/ジョゼフ・クロス/メリー・ベス・ハート/パーラ・ヘイニー=ジャーディン (ソニー・ピクチャーズ エンタテインメント 配給/2008年アメリカ映画/100分)

……サイコスリラーが IT スリラーに進化！ 「killwithme.com」とは、参加者が共に殺人ゲームを楽しむ悪魔のサイト。その発案者は一体誰？ その動機は？ そのターゲットは？ 子持ちの FBI 女性捜査官ダイアン・レインの熱演に注目だが、ネット犯罪がここまで進化するとホントにヤバイ！ これは近未来の物語ではなく、すぐ明日には現実に……？

サイコスリラーも IT スリラーの時代に……？

衆目の一致するサイコスリラー (サイコサスペンス) の代表作は、『羊たちの沈黙』(91年) (シリーズ)、『セブン』(95年)、『ソウ (SAW)』(04年) (シリーズ) などだろうが、そんな映画の醍醐味は、生々しく手の込んだ殺人事件の新鮮さ (?) と殺人鬼の分析、追及、逮捕のスリル。

他方、インターネット時代の到来と共に、パソコンやネットを最大限に活用した映画がたくさんつくられてきたが、「IT スリラー」ともいふべき境地までそれを高めたのがこの映画……？ そのウェブサイトの名は、シンプルでわかりやすい「killwithme.com」。つまり、パソコンをみんなで見ながら一緒に人を殺しましょうというメッセージを込めたサイト。つまり、巧妙にセットされた被害者への責めは、そのサイトへのアクセス数が増えるのと正比例して早まり、遂にある臨界点に達するとアウトというわけだ。

たしかにそんな企画は面白いし、ダイアン・レインの熱演も光るのだが、「ひょっとしてそのサイトを見ていた私も殺人の共犯？」と思うと、どこかに気味悪いものが……。

原題と邦題、どちらがお好き？

この映画の原題は『UNTRACEABLE』。「trace」とは「追っていく。追跡する」、
「traceable」とは「追跡できる」、そして、それに「un」がつけば「～できない」という意味だから、「untraceable」とは「追跡不能、追っかけることができない」という意味だ。つまり、インターネット上の「killwithme.com」で展開される、衆人参加による殺人劇の（犯人）追跡は不可能という意味……？ もっとも、それでは被害者の家族はたまらないし、犯罪の一般予防の見地からもそれはゆゆしき問題。

この原題はレベルの落ちた今の日本人の英語力では理解できないとみたためか、邦題は『ブラックサイト』とされた。サイトという言葉は、若者はもちろん少しはインターネットを使いこなしている多くの日本人に馴染んでいるから、『ブラックサイト』というのと、何となくそのイメージはわかる。しかし、このサイトは「killwithme.com」と名づけられたものだから、もっとはっきり「殺人サイト」とでもした方がわかりやすかったかも……。しかして、あなたは原題の『UNTRACEABLE』と邦題の『ブラックサイト』、どちらがお好き？

京都府警のハイテク犯罪対策室長に、女性警視が！

2008年3月19日付読売新聞夕刊は、ノンキャリア組で京都府警初の女性警視が登場することを写真入りで大きく報道した。彼女の名は小山雅子。彼女が就任するのは「Winny（ウィニー）」の開発者やコンピューターウイルス作成者の摘発などで全国的に注目を集める「ハイテク犯罪対策室」の室長で、16人の部下を率いて捜査の指揮を執ることになるとのこと。

『ブラックサイト』の主人公であるFBIの特別捜査官ジェニファー・マーシュ（ダイアン・レイン）は、ネット犯罪のエキスパート。オレゴン州ポートランドで若い相棒のグリフィン・ダウド（コリン・ハンクス）と共にインターネット上のクレジットカード詐欺や性犯罪者を取り締まっている。その仕事ぶりをみていると、パソコン操作がプロ級であることは当然としてもいかにもネット犯罪に詳しそう。

それに比べると、小山雅子氏は「パソコンは素人。勉強しなくっちゃ」とのことだが、小山さんホントに大丈夫……？

ハリウッドの天才児は、43歳でも大活躍！

この映画最大の売りは、主人公となる FBI の捜査官を中年女性にしたこと。女性の FBI 捜査官として一躍名を馳せたのは『羊たちの沈黙』のジョディ・フォスターだが、正確に言えばこちらはまだ FBI アカデミーの訓練生。しかし、ダイアン・レイン演ずるジェニファーは、夜間勤務というシフトながらも第一線でバリバリ活躍しているうえ、相棒のグリフィンをリードする立場。

考えてみれば、1979年に「A Hollywood Whiz Kid」（ハリウッドの天才児）として『TIME』の表紙を飾ったダイアン・レインは1965年1月生まれだから、既に43歳。したがって、FBI の女性捜査官としてそれなりの地位に就いていてもおかしくないわけだ。警察官だった夫は殉職したらしいから、家事は母親のステラ（メリー・ベス・ハート）頼みでオーケーだが、8歳の娘アニー（パーラ・ヘイニー＝ジャーディン）の子育てと仕事の両立は大変なようで、苦闘しながら何とか帳尻合わせの日々……？ しかし、今回発生した事件は大ゴト！

観る側にも IT 知識が必要……？

最初の犠牲者（？）の映像は猫。「killwithme.com」の管理人はこれを自ら FBI に通報したため、発信源がオレゴン州ポートランドであることは判明したものの、どうしてもその映像を消すことができないらしい。また、使用サーバーはロシアにあるらしい。

そう言われても私には何が何やらサッパリわからないし、多くの観客もそういう方面の IT 知識はあまり持ち合わせていないのでは……？ サイコスリラーがこんな IT スリラーにまで進化した今、ホントは観客の IT 知識もレベルアップした方がベターだが、そこをわかりやすく表現するのも映像技術のうち……？

最初の犠牲者は？

猫に続く最初の人間の犠牲者はある中年男。アクセス数が増えるにつれて出血を早める抗凝血剤の投与量が増すようにセットされているため、このサイトへの参加者が増えれば増えるほど彼は早く死ぬというわけだ。つまり、このサイトをみているあなたも殺人の共犯者となるのだが、さて最初の殺人に要した時間は？ そのアクセス数

は？

映像の最後は何とも挑発的。すなわち、地元の刑事エリック・ボックス（ビリー・バーク）と協力して捜査を進めるジェニファーやグリフィンをあざ笑うかのように、そこに表示されたのは「ご協力感謝。続く」というメッセージだった。

2番目は……？ 3番目は……？

2番目の犠牲者はあるケーブルテレビのレポーター。そして3番目の犠牲者は何と犯人像に近づいていたらしいジェニファーの相棒のグリフィン。私は2月16日『ソウ4』（07年）を観て、その殺しの残忍さとトリックの複雑さにビックリすると共にハマってしまったが、IT知識の豊富な観客なら、この映画で犯人が主催する「killwithme.com」での殺人ゲームの残忍さと面白さ（？）にハマってしまう危険性がある。

サイトへの参加者が増えれば増えるほど犠牲者の死亡が早まるように殺し方を工夫してセットするというのは、異常者にとっては楽しいことまちがいなし……？ すると、映画だからと笑って観ていられるのはホンの少しで、近い将来この映画と同じようなブラックサイト＝殺人サイトが開設される可能性は大……？

意外に早く犯人の顔が……

普通こういう映画では犯人の顔はギリギリまで見せないものだが、『ブラックサイト』では犯人オーウェン・ライリー（ジョゼフ・クロス）の顔を早々と見せている。犯罪捜査で重要なポイントは「動機」だが、オーウェンがこんな殺人ゲームを思いつき、「killwithme.com」を開設したのは一体なぜ……？ そんなオーウェンが狙う4番目の標的は果たして誰……？ それはストーリー展開上当然ジェニファーだろうと思っていると、案の定……。

ジェニファーの家の映像が映ったところで、FBIはジェニファーの母親と娘を避難させたが、ジェニファーは「休みを取れ」との忠告を無視して、なお犯人逮捕に頑張ると宣言。しかして、その結果は……？

ラストのアクションシーンには賛否両論が……？

第1、第2、第3の犠牲者についてFBIは全然救出できなかったが、死の直前にグ

リフィンが残したメッセージなどをヒントに徐々に犯人の包囲網は狭められていた。そして、その推理にはジェニファーが大活躍！まさか犯人はそんなジェニファーに仕返しをしようとしたわけではないだろうが、ある日ジェニファーはまんまと犯人の巧妙な仕掛けにはまり、大雨の中、ポートランドの有名な観光名所ブロードウェイ・ブリッジの上で車が立ち往生。ここは、かつて犯人の父親が飛び降り自殺をした映像が全国に流された場所だ。なぜ父親は飛び降り自殺を？そしてカメラはなぜその撮影を？さらにそんな映像がくり返しくり返しネット上で流され、楽しまれるのは一体なぜ……？

さあ、ここからいよいよ犯人とジェニファーとの対決だが、圧倒的に知力に勝る犯人は今ジェニファーを逆さ吊りにしていた。つまり、サイトへの参加者が増えるにつれて少しずつジェニファーの身体が下に降りていけば、そこで猛回転しているのこざりによってたちまちお陀仏というわけだ。

さて、ジェニファーはどうやってこの危機を切り抜けるのだろうか？また大画面でこの姿を見ているFBIの面々は、今度こそジェニファーを救出できるのだろうか……？このラストのクライマックスシーンは意外なアクション映画になるのでそれに注目だが、それには当然賛否両論が……。

2008(平成20)年3月20日記